

Le jardin des modes (ル・ジャルダン・デ・モード)

Paris : [s.n.], 1920 - 1996

「ル・ジャルダン・デ・モード」が発行されるまでには、やや複雑な経緯がある。

1920年10月、パリで「リリュストラシオン・デ・モード (L'illustration des modes)」が創刊された。ヒラーの文献目録は、雑誌「リリュストラシオン (L'illustration)」の別冊としている。1922年2月まで2週間に1度発行され、3月から月刊となった。その年タイトルをわずかず何度か変更したのち、巻次を引き継いだまま「ル・ジャルダン・デ・モード」となって、以後70年以上発行を続けることになる。この間、1940年から1947年、1971年から1977年の2回発行を中断している。

「リリュストラシオン・デ・モード」創刊時からの編集責任者は、1912年に「ガゼット・デュ・ボン・トン」を創刊したジャーナリスト、リュシアン・ヴォージェル (Lucien Vogel) で、第二次世界大戦後まで編集に関与している。編集長はジャーナリスト、ミシェル・ド・ブリュンホフ (Michel de Brunhoff) であった。ヴォージェルは、妻コゼットとともにフランス版「ヴォーグ」の編集にもかかわっていたのだが、「リリュストラシオン・デ・モード」は「ヴォーグ」よりも幅広い読者層を想定していた。創刊時の発行者はマルセル・バッシェ (Marcel Baschet) だったが経営上の問題もあり、ヴォージェルの依頼で「ヴォーグ」の発行者でもあるコンデ・ナストが発行を引き継いで、誌名を「ル・ジャルダン・デ・モード」と改めた。コンデ・ナストの名前が発行者として雑誌上に表示されるのは1922年10月号からであるが、発行者交替の影響か、1922年タイトルはめまぐるしく変更された。「L'illustration des modes, ou, Le jardin des modes」(4月)、「L'illustration, ou, Le jardin des modes」(5月-7月)、「Le jardin des modes, ou, L'illustration des modes」(8月-11月)と変遷して12月に完全に「Le jardin des modes」となる。だが、タイトルの下には小さな字で“anciennement L'illustration des modes”(元リリュストラシオン・デ・モード)と記してあり、それは翌年6月まで残っている。以上の経緯から本誌の創刊は1920年、1922年のどちらともとらえることができる。

本館の所蔵は、2回目の再開直後の8冊を欠いているが、それ以外では全体で数冊の欠号があるだ



1923年6月15日号表紙 マルティによるイラスト

けで、創刊から終刊までを見渡すことができる。本館所蔵最終号は1996/1997年の冬の号で、休刊について明記されてはいないがそれ以後刊行されていないようである。

初期の頃の内容は、ポワレ、シャネルなど著名なデザイナーの作品紹介や時々の流行、アクセサリーなどコゼット・ヴォージェルが監修したファッションの記事を中心とし、ほかに読み物、インテリア、手芸、料理なども取り上げられ、読者として幅広い年齢の女性を想定しているのがうかがわれる。本文中にもイラストが多用され、デザインされた活字や誌面のレイアウトが洗練された雰囲気をつくり上げている。1930年代の前半まではマルタン、ベニトなどをはじめとする当時の著名なイラストレーターが表紙に使われていたが、1930年代半ば、写真家の作品が表紙に採用されはじめるころから本文中の図版も写真の割合が増えていく。1971年の中断まで徐々に写真を主体とした誌面になっていくが、洗練された女性のファッション誌としての内容は変わらなかった。

2度目の中断後に再開された誌面は、ファッションのほかに編み物などの実用記事が目立ち、それ



1979年10月号表紙 ミルトン・グレイサーがデザインした最初の号

以前とは雰囲気の異なる雑誌となっていた。さらに1979年10月、アメリカのグラフィックデザイナー、ミルトン・グレイサー (Milton Glaser) が雑誌のデザインを担当し、判型がそれまでの約2倍(39×28cm)と、雑誌としてはかなり大型のものになった。内容も一新し、ファッションだけでなく文化、芸術などの記事を含み、読者対象も女性だけに限定しない斬新な誌面になった。1977年の復刊以後は発行元も変わり巻次も改められているため、それまでのものとは別の雑誌のようにみえる。しかし、大判となった最初の1979年10月号の巻頭には創刊時の考えや評判だった編み物欄のことが語られ、1920年創刊の歴史ある雑誌であることを示しつつ、今後は流行情報の雑誌に方向転換すると宣言している。

ジャルダン・デ・モードとは、フランス語でモードの庭園といったような意味である。日本で1936年に創刊され現在も継続しているファッション雑誌「装苑」のタイトルは、その影響を受けたということである。(柳沼恭子)